

シドニー派遣を通して

名古屋市立富田高等学校 2年 佐久間奈穂

1. 私の研修の目標

私は将来海外で働きたいと思っています。そのために英語を話せるようになりたいと思い、会話の能力を鍛えるために今回の派遣に参加しました。また、オーストラリアと日本の高校生の生活の違いも感じ取りたいと思いました。

2. 事前の準備

海外の人々が名古屋に来て楽しめるスポットをいくつか調べ、それについてのプレゼンテーションをパワーポイントで準備したり、日本文化について調べました。そして、実際に現地で紹介するための練習をしました。また、ホストファミリーへのお土産に日本のお菓子やカイロ、文房具などを用意しました。

3. シドニーでの体験

私は4日間ホームステイしながら、ブルーマウンテンズグラマースクールに体験入学をしました。私のホストマザーはブルーマウンテンズグラマースクールの数学の先生で、ホストファザーは別の公立高校の木工工作などを教えている工芸美術の先生でした。二人ともとても親切で優しく接してくれたので、楽しく会話が出来ました。

体験入学をして驚いたことがいくつかありました。まず、生徒達はみんな自分のパソコンを一人一台持っていて、ほぼ全ての授業でパソコンを使って授業を受けていました。プリントを使うのは違い、資料などを無くさないのが便利だと思いました。そして、オーストラリアの学校には「リセス」という2時間目と3時間目の間におやつを食べる小休憩があり、おやつを食べている生徒達の姿をよく見かけました。

ホームステイでは、生活スタイルが日本とは大きく異なり、私のホストファミリーは每晚9時には寝ていました。お風呂は湯船には浸からず、朝

にシャワーを浴びるという生活様式で驚きました。ホストファミリーの家庭に滞在中、日本の伝統文化を紹介する時間があったので、ダルマ落としと折り紙を紹介して、一緒に折り紙の鶴を折ったり、ダルマ落としで遊んだりしました。ホームステイ最終日の夜には、ホットチョコレートを飲みに来て行ってくれたり、夕御飯にピザを食べに来て行ってくれました。学校帰りにはスーパーに寄って買い物をしたりしました。

ホームステイの4日間は全てが楽しく、新鮮で、いい経験をすることが出来ました。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

現地のネイティブスピーカーの人々の英語を聞いて、理解して、会話をする事が出来たということが大きな成果だと思います。今まで日本にいる時でもALTの先生と会話をする事は出来ましたが、英語でのみ生活をする現地の人々は話すスピードもアクセントも、発音もかなり違っていました。それを理解して会話する事が出来たのでとても自信が付き、勉強になりました。

<課題>

今回の研修で自分にまだまだ足りないと思ったことは現地の人々が話す英語をそのままのスピードで聞き取って理解することができないということです。一回で聞き取って答える事が出来た場面もありましたが、ほとんどの会話でもう一度言ってもらったり、ゆっくり話してもらったりしたので、もっと聞き取る練習をして、そのままのスピードで聞き取れるようにしたいと思います。



ホストファミリーの家庭での朝食